

キリスト教学校教育同盟 北海道ブロック研究集会について

1月30日（土）午前11時より遺愛において、キリスト教学校教育同盟北海道ブロック研究集会が行われました。この会は、1年に1度、北星学園、酪農学園、遺愛学院が持ち回りで開く会議で、今回は遺愛学院が当番校で開催し、22名の教職員が集いました。

主題は『神様から委ねられた自然との共生』で、本校の非常勤講師である中森 司先生に『大間原発と函館』という題で主題講演をしていただきました。チェルノブイリ事故から30年経ち現状はどうなっているのか、福島原発や被災者の現状などをふまえ、大間原発の特殊性（世界初の、制御が非常に難しいフルMOX燃料使用の原発であること、事故が起きた際に函館の住民の安全な場所への避難が地理的条件からほとんど不可能であること、通常の稼働でも津軽海峡は貴重な水産資源への悪影響など）からくる危険性を詳しい資料を提示しながら指摘し、大間原発建設差し止めの市民運動について語ってくれました。札幌からいらした先生方は距離的に離れていて、状況があまりわかっていなかったようですが、中森先生の講演からその危険性をよく理解できたようでした。「距離的に離れている」、「見えない」というのは、事象を理解する上では大きなハンディになるとつくづく思います。函館市から大間は目と鼻の先で最短23km、津軽海峡をはさんで天気の良い日はお互いに間近に見えますが、青森県のほとんどの市町村から大間は見えません。しかし青森が持つ大間原発建設の同意権は、函館にはありません。

講演の後は、各学園の現在の様子が紹介され、自由討議の時間となりました。今年の参議院選から18才以上の生徒も参政権を行使できるようになりましたが、生徒の政治意識を高めるために、どのような関わり方をしたらよいか？政治的中立性をどのようにとらえたらよいかなどが話し合われ、とても勉強になりました。

2016年1月30日



啄木の碑と函館山



啄木の碑と津軽海峡
(雲の下にうっすらと大間が見えました)